

茨城地区ニュース 2021年1月 (2020年度)

コロナ感染発症の昨年から約1年、まだしばらく収まらない状況となっていますが、各々の保育園は工夫をしながら、子どもたちの笑顔につながる活動を考え取り組んでおりますが、現状は茨城の自然の素晴らしさの中で、今までの様に県外に出かけての自然体験ができない、行事の取り組みも一つ一つどの様に取り組むか、内容を変更するなど、いつもと違う日常生活に戸惑っている。特に日本古来からの伝統文化行事までも中止せざるを得ないなど悩みながらの保育をしています。

◆年齢別部会では

集まることができない中でも学びあおうと、各年齢で共通のテーマを決めて資料として子どもたちの現状・働きかけ・変化成長・困っていることや学んだ本資料をまとめ、一緒に絵の写真・遊んでいる写真・自然体験活動の写真を各園に送ることで交流するという形とした。交流することで励まされ学び保育していたことができない今ですが、書くことで自分の保育を見つめ、他の園も頑張っていることを知るだけでも不安が少なくなる。そんな年齢別部会をしました。

今後園長のウェブ会議で深めていくことにしています。

◆年長～土岳山（つちたけさん）山登り*

いつもなら5園で高萩市にある土岳山に登るのですが、密にならないようにと11月16・17日の二日間に分けて山登りを楽しみました。

県内でも有名な紅葉スポットで、杉林の木々の根の階段を登り、面白い形の木を見たり、岩場では足をグンと踏み込んで登り、やっと着いた頂上は冬には富士山も見える所で、お弁当を食べて下山しました。下山途中に樺の大木があり、皆で手をつなぎ太さを感じたり美しい紅葉に驚きながら帰りました。途中みかんの北限のみかん園によりみかん狩りを楽しみ酸味のあるみかんを沢山採りお土産も持ち帰りました。

交流のない今年やっと出来た山登り交流に子どもたちは笑顔満面でした。



◆年長交流リズムでは

9月にリズム合宿を予定していましたが、会場のある水戸市のコロナ感染者が増加したことで中止。合宿はできないけれど12月2・3日にリズム交流を大きな体育館を借りて行う予定にした。しかし、茨城県のコロナ対策指針がステージ3にあがった為中止。全体での交流はできていない。毎月、年長児保育実践報告資料を各保育園に送って各園の様子を知れ学んだり出来るようにしている。

◆「スーホの白い馬」の世界を感じて～馬頭琴の演奏と共に～

11月10日に、ひたちなか市の「しあわせプラザ」で、「スーホの白い馬」の朗読と「馬頭琴」の演奏を聴きました。コロナの影響で、交流活動がほとんどできていない状況の中で、せめて年度当初計画を立てていた文化的な活動はできないものかと、話し合いを重ね、ソーシャルディスタンスを保てる会場を探し、実施することができました。

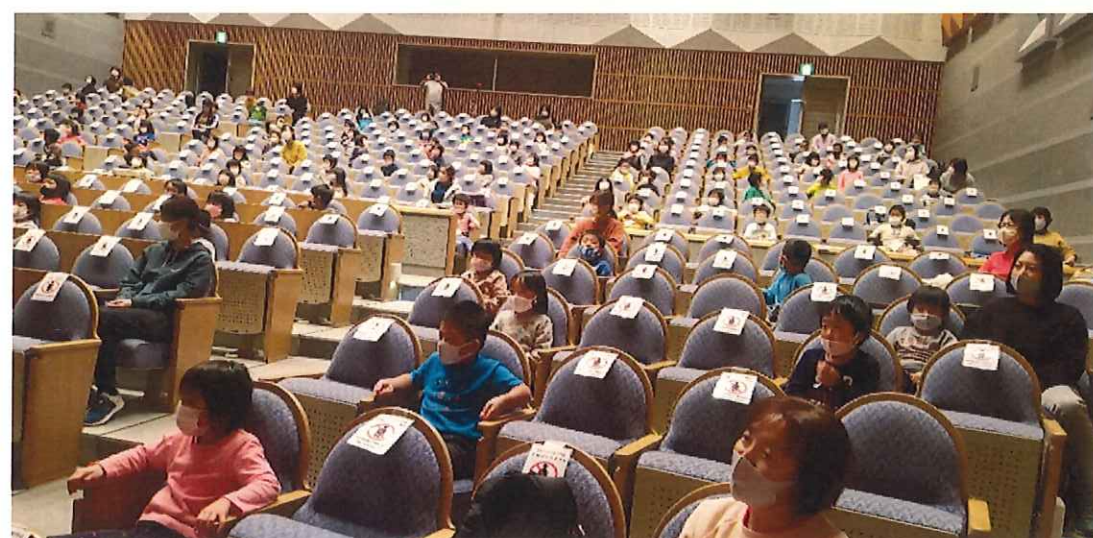
子ども達は、朗読と演奏会を楽しみにしていたのは勿論ですが、交流園の仲間に出会えることも楽しみにしていました。初めての8園での交流です。当日は、誰一人休むことなく、133名全員が一堂に会しました。公演時間は1時間を予定していたので、絵本の読み聞かせ等も行いました。当日の内容は以下の通りです。

- 1 絵本の読み聞かせ 2冊 「もけらもけら」「キャベツくん」
- 2 「スーホの白い馬」朗読と「馬頭琴」の演奏
- 3 「馬頭琴」の楽器説明とソロ演奏 及び 「馬頭琴」の音色に合わせた乗馬体験
- 4 「ひびけ草原の歌」演奏と斉唱

プロの朗読家に読んでもらうことにより、子どもたちは目を輝かせて絵本の世界に入り込んでいたのは勿論のこと、保育士は、自分の読み方との違いを感じ、読み方を学ぼうとする姿勢も感じられました。「スーホの白い馬」の朗読に合わせた馬頭琴の音色は、「馬が走れば、音色も走る」「馬がいなければ、音色もいなくなる」と、より臨場感が増し、話の内容とともに子どもたちの心に響き渡りました。

「馬頭琴」が馬の体のどこの部分からできているのか、本物の楽器を見ながら話を聞く貴重な体験もできました。手綱を持つように手を構え、馬頭琴の音色やリズムに合わせ、身体を動かす乗馬体験は、楽しみながらも馬頭琴の音色に全神経を集中している子どもたちでした。最後に、馬頭琴とピアノの伴奏で「ひびけ草原の歌」を歌いました。馬頭琴とピアノ、そして子どもたちの歌声が会場中に響き渡り、「スーホの白い馬」の世界を心豊かに感じる事ができました。





～ 年長担任の感想より ～

- ・生の朗読とそれに合わせた馬頭琴の演奏に、とても感動して聴き入っている子ども達の様子がありました。園に帰ってからも、下のクラス子ども達や大人に、スーホの白い馬の物語の内容や馬頭琴の話を生き生きと話していて、生の演奏や語りを身体全体で感じてきたのだと思いました。
- ・私自身も初めて馬頭琴の音色を聞きました。子どもの頃から知っていた「スーホの白い馬」がさらに素敵な絵本だと改めて感じる事ができました。
- ・馬のいななきを音で表現できる驚きと、それを体で表現する体験ができ、聴くだけではなく、まるで本物の乗馬のような気持ちになり、参加型でできたことは、子ども達も声を出して楽しんでいて、とても良い時間でした。
- ・帰りのバスの中で「ひびけ草原の歌を歌いたい！」となり、今までの歌声よりはるかに生き生きとした歌声に変わっていました。また、翌々日の散歩先で、自分の背丈ほどの枝を見つけ、馬頭琴にみたくて奏でる姿も見られ、本当に印象深かったのが分かりました。
- ・帰ってからも馬頭琴の演奏を思い出し「きれいだったね」「馬の鳴き声に似ていたね」と余韻を楽しんでいました。絵も楽しく表現しながら描いてます。就学前の大切な時期に、良い文化に触れることができ、子ども達も豊かな経験をする事ができたことを嬉しく思います。

